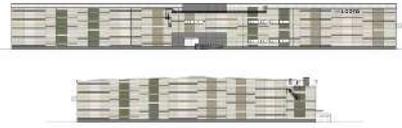


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)LOG'Q厚木三田計画 [東棟]	階数	地上2F
建設地	神奈川県厚木市三田字下川原2373-1 他	構造	S造
用途地域	市街化調整区域	平均居住人員	131 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	工場,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2025年11月 予定	評価の実施日	2024年8月19日
敷地面積	17,243 m <sup>2</sup>	作成者	コンストラクションマネージメントジャパン 株式会社一級建築士事務所
建築面積	9,630 m <sup>2</sup>	確認日	2024年9月1日
延床面積	19,038 m <sup>2</sup>	確認者	株式会社 加賀田組東京支店一級建築士事務所



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 1.1**

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ BEE: 1.0 C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

46 (kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q 環境品質** **Q のスコア = 3.2**

**Q1 室内環境** **Q1のスコア = 0.0**

音環境	N.A.
温熱環境	N.A.
光・視環境	N.A.
空気環境	N.A.

**Q2 サービス性能** **Q2のスコア = 3.7**

機能性	N.A.
耐用性	3.1
対応性	4.3

**Q3 室外環境(敷地内)** **Q3のスコア = 2.8**

生物環境	3.0
まちなみ	3.0
地域性・	2.5

**LR 環境負荷低減性** **LR のスコア = 2.9**

**LR1 エネルギー** **LR1のスコア = 0.0**

建物外皮の	N.A.
自然エネ	N.A.
設備システ	N.A.
効率的	N.A.

**LR2 資源・マテリアル** **LR2のスコア = 3.0**

水資源	3.4
非再生材料の	3.0
汚染物質	3.0

**LR3 敷地外環境** **LR3のスコア = 2.9**

地球温暖化	N.A.
地域環境	2.8
周辺環境	3.0

### 3 設計上の配慮事項

総合	その他
倉庫業を営む倉庫として、対応性・更新性に優れた建築物として設計されている。	
<b>Q1 室内環境</b>	<b>Q2 サービス性能</b> 空間、荷重にゆとりをもった設計を行い、将来的な変更に対応できる建物としている。 ケーブルラックの採用により、電気・通信配線の更新性を高めている。
<b>LR1 エネルギー</b>	<b>LR2 資源・マテリアル</b> 節水コマに加え、節水型便器、自動水栓を採用している。 下地にLGSを採用、再利用できるユニット部材を採用し、部材再利用の可能性を高めている。
	<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>
	<b>LR3 敷地外環境</b> 燃焼機器を不採用とし大気汚染防止に努めている。

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■ 「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■ 評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される